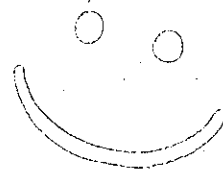


すまいる通信

Vol. 5

2015(平成27)年3月発行

障がい児者福祉施設協議会 広報紙



今月の 主な内容

特集 「人材確保・定着・養成等に係る
アンケート調査結果」(二～三ページ)
会員施設・介護福祉士等養成施設・県内
中学校と様々な視点から福祉における人
材確保等について調査を実施しました。

「各種研修会を開催しました」(五ページ)
本年度、各委員会で企画、開催した研
修会の様子をご紹介します。

「義援金をお渡ししました」(六ページ)
新潟県社会就労センター連絡協議会
様よりいただいた寄付金を、東日本大
震災で被災された就労支援施設にお渡
しました。



表紙の写真を「すまいる通信」のタ
イトルにちなみ、会員施設の皆様か
ら笑顔の写真が大募集。多数の応募
作品の中から選ばれたのは、「光の
家 作山さん」の作品です。なんと、
光の家から二年連続で選ばれるとい
う快挙！

この写真は園芸活動での野菜収穫
のコマで、春先から育てたナスを収
穫し、満面の笑みがこぼれています。

作山さん喜びのコメント

「自分の撮った写真が表紙に選ば
れ、嬉しく思います。本人様ご両親様
もとても喜んでおられました。」

この他にも、素敵な笑顔の写真
を四ページにご紹介しています。
ぜひご覧ください。

表紙の写真

「とつたど〜」

撮影者…いわき福音協会 光の家

職員 作山 栄二さん

特集 人材確保・定着・養成等に係るアンケート調査結果

介護・福祉分野における人材不足は福島県内だけでなく、全国的にも大きな問題となっており、障がい児者施設(事業所)も例外ではありません。人材確保に向けては求職者の考えやニーズを理解するとともに、人材を必要とする施設側からも求められる情報を正確に伝える必要があります。

そのため、本協議会調査広報委員会では、会員施設・県内介護福祉士等養成施設・県内中学校を対象に人材確保等に関する取り組みや障がい児者施設に関する意識調査を実施しました。今回はその結果の概要についてご報告いたします。(詳細については、各施設に送付している調査集計結果をご覧ください)ご協力いただきました関係者の皆様に御礼申し上げます。

【調査実施期間】平成26年9月25日～10月17日

① 県内中学校

- 調査 県内中学校224校
- 回答 152校
- 回答率 67.9%

② 県内介護福祉士等養成施設

- 調査 介護福祉士等養成施設14校
- 回答 8校
- 回答率 57.1%
- ※定員数で集計した場合
- 調査 674名
- 回答 211名
- 回答率 31.3%

③ 会員施設

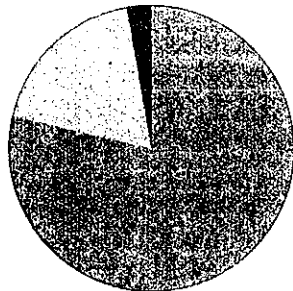
- 調査 本協議会会員施設105施設(休止中の施設を除く)
- 回答 75施設(通所系26施設、入所系46施設)
- 回答率 71.4%

① 県内中学校

Ⅰ. 中学二年生向けに作成したリーフレットの活用方法について

「貴学校ではリーフレットを生徒に配布しましたか」の問いに対して、「配布した」と「今後配布する予定」の学校を合わせると、九七・四%とほとんどの学校で配布するといった結果となりました。〔表1〕

【表1】リーフレットの配布について



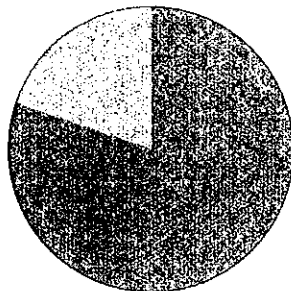
- 配布した…78.7%
- 今後配布する予定…18.7%
- 配布する予定はない…2.6%

「リーフレットを配布する前後で生徒に何か変化はありましたか」の問いに対しては、「無回答」が七〇・六%と多かつたものの、次いで「変化があった」が二・六%とあり、変化の内容については、「福祉について興味・関心を深めた」「進路希望等で、福祉に関わる仕事に興味を持つ生徒が増えた」「職場体験をするうえで心構えに役立った」など、このリーフレットによって障がい者や福祉施設へ関心を向けるきっかけになったことが伺えました。

Ⅱ. 福祉施設とのつながりについて

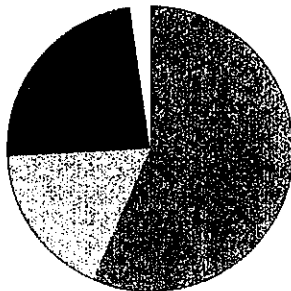
福祉施設とのつながりの有無については「ある」が八〇・三%とほとんどの学校が福祉施設と何らかのつながりを持っているものの、障がい者施設は他の種別に比べ一七・五%と低く、多くは高齢者施設へ職場体験やボランティア活動により交流を図っている結果となりました。また、今後つながりを持ちたい施設としても他の種別に比べ低く、これまで以上に地域に開けた施設であることが求められる結果となりました。〔表2〕〔表3〕

【表2】福祉施設とのつながりについて



- ある…80.3%
- ない…19.7%

【表3】つながりのある施設の系列



- 高齢者施設…56.8%
- 障がい者施設…17.5%
- 児童関係施設…23.5%
- その他…2.2%

② 県内介護福祉士等養成施設

III. 福島県内での就職について

福島県内の福祉系資格の養成校の学生を対象にアンケートを行ったところ、八七・六％の学生が県内での就職を希望しているという結果になりました。【表4】

【表4】福島県内での就職について

希望している…87.6％
希望していない…12.4％

また、就職先を決める際に重視する点としては、一番に「給料・収入面」と挙げる学生が多く、次いで「施設・職場の雰囲気」「勤務形態・業務内容」などと続きました。「どうすれば福祉施設に就職する人が増えるか」の問いに対しても、「給料面の改善」「休暇を増やす」といった意見が多く見られ、学生が収入面や労働条件を重視している傾向にあることが伺えました。その他、「福祉のイメージを改善する」「施設見学会を積極的に行う」「一般の方々に気軽に来てもらえるようなイベントを行う」といった福祉や施設を知ってもらうための情報発信を提案する意見が多く寄せられました。

次に、障がい者施設に対してのイメージについて尋ねたところ、「大変」「辛い」「暗くて閉鎖的」といったマイナスのイメージを持っている学生が多い傾向が伺えましたが、実際に施設での実習やボランティア活動を体験することで、「やりがいを感じる」「楽しい」「世界

観が広がった」など肯定的な意見や、「幅広い知識や体力が求められる」「授業で勉強していても、実際に関わってみたいと分からないことがたくさんあった」といった意見も聞かれました。このことから、福祉や施設、障がいについて知ってもらうための情報発信や、地域との交流の機会の必要性・重要性が伺えました。

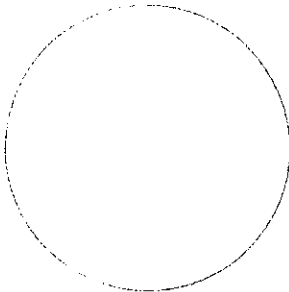
③ 会員施設

IV. 人材確保のための工夫について

「施設として人材確保に向けて工夫していることはありますか」の問いに対して、「ある」と回答した施設は五三・四％、「ない」四六・六％となりました。工夫している具体的内容としては、「高校、大学、専門学校への訪問活動」「職場見学及び体験の実施」などが挙げられました。

また、人材確保で成功している具体的な事例としては、「実習生として受け入れ、利用者との関わりなど積極的な方には就職を勧め採用に至った」「実習生のボランティア登録を依頼し、メール等での連絡やり取りを維持する」など実習生として業務を体験し、施設の雰囲気を感じてもらうことで採用につながった傾向が多い結果となりました。【表5】

【表5】人材確保に向けた工夫について



○ある…53.4％
○ない…46.6％

V. 今回の調査において感じたこと、気付いたこと等について
今回の調査では、求職者側としてまた就職を意識していない中学生と、直近の問題として意識している介護福祉士等養成校の学生を対象に行いました。まず、中学校からのアンケートからは、先に配布したリーフレットの効果もあり福祉の仕事に興味を持つ中学生が多くなってきましたが、中学生の年代では福祉施設・高齢者施設という認識が強く、障がい者施設の認知度がまだまだ低いという結果が得られました。さらに養成施設への結果からは障がい者施設は、大変で辛くて暗くて閉鎖的といったイメージを持っている学生が多い傾向が伺えました。それに対して人材を必要としている会員施設側では、人材確保に向けて対策を工夫している割合が五三・四％とまだ半数程度でした。今後、人材確保・定着のためには会員各施設の地域への認知度をあげるためのさらなる積極的な努力、工夫が必要であることが伺えました。

就職を控えている養成校の学生側が就職を決める際に重視する点としては、やはり収入面を挙げる学生が二〇一人と最も多かったものの、施設、職場の雰囲気重視するという学生も八〇人と多く、収入面と同程度に働き易さを重視しているという結果が得られました。ともすると、人材不足の問題点の多くは収入面の低さであると思われるがちな傾向ですが、現場の施設職員が工夫し、より良い職場環境作りに取り組んで行けば人材は集まるといことが考えられます。収入面での改善は一朝一夕にはいくものではなく難しい問題ではありますが、魅力ある職場の雰囲気作りは今からすぐにでも出来ることであり、さらに、県内での就職を希望している学生が八七・六％である結果と併せて、今後、会員施設では魅力ある職場作りに取り組んでいくことが人材確保につながっていくものと期待しております。

笑 顔 の 写 真 あ り が と う

今号でも「すまいる通信」の「すまいる」にちなみ、会員施設の皆様から写真を大募集しました。選考を行った調査広報委員会でも意見が分かれるなど力作が勢ぞろい。惜しくも表紙は逃したけれど、寄せられた写真の中から素敵な笑顔を紹介いたします。

ご応募いただいた皆様、本当にありがとうございます。



満開のあじさいの前で敬礼！あじさいに負けない笑顔があふれています。【福島県かえて荘】

日中活動でいわき市にある暮らしの伝承郷を見学している様子です。【いわき育成園】



誕生日プレゼントをもらって喜んでいる瞬間の1コマ。「プレゼントの中身は何かなあ」【光の家】



研修会を開催しました。

研修委員会

障害者の権利に関する条約、いわゆる「障害者権利条約(略称)」が平成二十六年一月二十日に批准されました。その他、優先調達推進法の施行や障害者差別解消法の制定など近年、障害者福祉を取り巻く環境は大きな変革期にあると言えます。法制度の動向についても管理職だけが理解していれば良いといった風潮は無くなり、現場で働く職員にこそその理解が求められていると考え、関連制度の動向などについて研修会を開催しました。

講師には日本社会事業大学福祉援助学科 教授 佐藤久夫氏を迎え、障害者福祉制度の動向や課題についてご講義いただきました。また、質疑応答では、事前に提出いただいた質問内容について詳しい説明をいただき、参加者からも満足の声を多くいただくことができました。



健康管理等企画運営委員会

今年度は会員施設 事業所に疾病に関するアンケートを実施しました。その結果、多くの施設が対応に苦慮している「てんかん」に焦点を当てて研修会を開催しました。岩沼市にあるてんかん専門病院 ベーテル 開設者 曾我孝志氏と副院長 海野美千代氏を講師に迎え、てんかんのメカニズムから発作時の対応など医学的な観点に基づく講義を行いました。

また、研修の後半では質疑応答の時間を設け、自施設のケースを相談する場面や普段の業務の中で抱える課題などについて丁寧に答えさせていただき、満足いく研修会となりました。

てんかんは個人差が大きいため、決まった対処方法が確立できないところに難しさがあります。今回の研修の中で利用者の見守りは担当職員だけが行うのではなく、施設全体で見守る

ことで転倒などの事故も未然に防ぐことが出来るとお言葉をいただき、普段の支援活動の中で変化や予兆に気づくことの重要性和職員間での連携の必要性を改めて感じました。



安全運転講習会

今年度は県南方部(白河市)において開催しました。特定非営利活動法人 交通事故予防センター 長久保田邦夫氏を講師に迎え、実技と講義を行いました。

実技ではチェック表を用いた不安全行動の抽出を行うことで、自分では普段気付かない運転時の癖などに気付き、認識を改めることでリスク低減に向けた運転技術の習得に努めました。

また、講義では介護送迎事故の事例を通して利用者への理解を深めるなど、送迎担当として必要な技術や知識だけでなく、相手の気持ちに寄り添うことの大切さについても学びました。



各委員会活動報告

健康管理等企画運営委員

今年度は「疾病」をテーマに各施設における疾病の傾向や課題、そして取り組みの実態について調査しました。入所・通所による疾病の違いや、歯やてんかんなど共通して課題となっている疾病についても把握することができました。

また、研修会では今回のアンケート結果を基に「てんかん」をテーマに開催しました。発作の起こるメカニズムや発作時の対応を学ぶとともに、てんかんに関する日頃からの悩みを質問形式で丁寧に答えていただくなど有意義な研修会となりました。

最後に、アンケートにご協力いただきました会員施設の皆様に感謝申し上げます。

研修委員会

今年度は「障害者福祉および関連制度の動向と今後の課題」をテーマに、二〇〇九年に始まった「障がい者制度改革」の経過について、丁寧な説明を聞くことができました。受講者のアンケートからも勉強になったとの意見が多く聞かれ貴重な研修であったと感じています。

また冒頭では、「障害、障がいの」の表記についての考えを聞くことができました。障がとと言う言葉は「碍」の字、「礙」が本字が常用漢字でないことから、ひらがなで書いているものであり、「礙(がい)」の字は「石の前でためらい足を止めている(石十疑)」という漢字であること、そして「障」の字は「障子(しょうじ)」に使われていることから想像されるように、衝立の意味だということです。障害者権利条約が批准された今、障がいを抱える方たちの目の前のバリア(衝立)に寄り添いどう支援していくのか改めて考える機会となりました。多くの会員の皆様にご参加いただきありがとうございました。

副委員長 宗形 洋子(福島県失吹しらうめ荘)

調査広報委員会

今年度は福祉現場における人材確保・定着・養成等に係るアンケート調査を実施しました。対象を会員施設だけでなく、養成施設や県内中学校に広げることで多角的な視点に基づいた意見を集約することができました。人材確保については各施設で様々な取り組みを実施しているものの、学生が求める施設像との間にギャップも生じており、大変興味深い結果が得られましたので是非ご覧ください。

また、今年度も本広報誌にたくさんの方々の笑顔がとろとろ溢れてきました。これからも本紙面を通じてまだ出会ったことのないたくさんの方々の笑顔をお届けしていきたいと思っております。

副委員長 佐藤 裕子(あだち共済育成園)

【発行者】 社会福祉法人 福島県社会福祉協議会 障がい児者福祉施設協議会

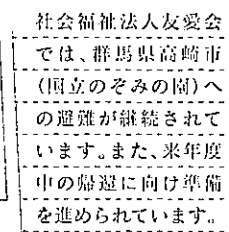
義援金をお渡ししました。

新潟県社会就労センター連絡協議会様より、東日本大震災にかかると就労支援施設への復興支援の一助にとご寄付をいただきました。役員会協議のもと、当該施設に本協議会より義援金をお渡しいたしました。



原町共生授産園

原町共生授産園では、震災後一時相馬市へ避難されたものの、現在では南相馬市内の元の事業所で事業を再開継続しております。(H26.8.6)



社会福祉法人友愛会

社会福祉法人友愛会では、群馬県高崎市(国立のぞみの園)への避難が継続されています。また、米年度中の帰還に向け準備を進められています。(H26.8.5)



(社福)友愛会

アクセスホームさくらでは、避難先である二本松市内に新たな事業所を建設し、利用者の支援にあたるため事業を継続しています。(H26.8.6)



アクセスホームさくら

本協議会では、利用者・職員の皆様が安心して福島県での生活が再開できるよう支援を継続していきます。

すまいる通信第五号が完成し、皆様のもとにお届けする運びとなりました。今号の特集で取り上げたように現在、福祉施設ではどの分野においても人材不足が深刻な問題となっており、高齢者施設では今後、外国人労働者を積極的に受け入れようとしています。一般的に認知度が高い高齢者施設でさえこのような状況であり、障がい者施設ではさらに深刻な状況だと思われれます。今回の調査結果を参考にしながら、会員各施設が互いに協力し合いながら優秀な人材確保に取り組んでいければと思います。今後とも、すまいる通信共々よろしくお願いたします。

調査広報委員会委員長 歌川 雄大(郡山市更生園)